

## 事業名：江別市教育研究所事業

学校教育課 学校教育係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実							
施策	01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実							
基本事業	01 教育内容の充実							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
江別市教育研究所	
手段（事務事業の内容、やり方）	
教育研究所の運営を行う。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
学力向上プランの作成や児童生徒意識調査の実施など、教育に関する調査・研究を、江別市の教育に生かす。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	研究所数	箇所	1	1	1	1
対象指標2						
活動指標1	研修会等開催回数	回	3	3	6	5
活動指標2						
成果指標1	研修会等参加者数	人	559	540	669	603
成果指標2						
事業費(A)		千円	3,683	2,041	2,177	2,216
正職員人件費(B)		千円	803	802	781	782
総事業費(A+B)		千円	4,486	2,843	2,958	2,998

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育に関する調査、資料の収集及び教育行政の情報提供</li> <li>教育相談・研修及び関係各機関との交流</li> <li>教育研究所報等の出版</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育研究所運営経費 1,900千円</li> <li>教職員セミナー等研修会経費 188千円</li> <li>家庭向けリーフレット 89千円</li> </ul>

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
平成22年度から全国統一学力テストが抽出式に縮小されたが、市内小中全校で実施しているため、結果の分析と、学力向上が求められている。また、平成23年度から小学校英語が必修化された。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 <p>江別市の児童生徒の教育の充実を図るために、専門的研究を行うものであり、妥当である。</p>
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input checked="" type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 <p>研究成果を教員等に提供するとともに行政に反映し、教師の指導力の向上等に貢献している。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 <p>依頼テーマに関する報告が行政に生かされている。教育に関する調査研究成果が教員へ還元されている</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 <p>当市の教育上の諸課題についての研究成果が提供されている。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 <p>平成19年度より所報の内部印刷による経費節減などを実施済みであり、これ以上のコスト削減は難しい。</p>